

電力遮断 5人死亡

ガザ南部 病院包囲続く

【カイロ＝秋山豊】イスラエル軍は16日も、パレスチナのガザ地区南部ハンユニースのナセル病院の包囲を続けています。ガザ地区保健当局は同日、ガザに残された最大機能を持つ同病院で、発電機が停止し、酸素供給が断たれて5人が死亡したと発表しました。

イスラエル軍は15日、イスラム組織ハマスに拉致された人質の遺体を取り戻すなどとして同院を襲撃。ガザ当局によると同院はイスラエル軍の「完全な支配下」に置かれています。

局アルジャジーラに「医療施設全体の電力が遮断された。集中治療室の患者、酸素供給や透析をしている患者は命をかけてたたかっている」と語りました。

ガザ当局によると電気も水も食べ物も暖房もない厳しい状況下で女性2人が出

産を強いられました。イスラエル軍は女性と子どもたちを「兵舎」に変えた魔窟病棟に押し込めています。イスラエル軍は数十人を拘束し、昨年10月7日のハマスによる奇襲攻撃に加わった容疑者が20人以上含まれていると主張。しかし、証拠は示されていません。

世界保健機関（WHO）のタリク・ヤシャレビチ氏は「患者に移動を強制するのは状態の悪化や死にさえつながりうると幾度も警告してきた」とイスラエル軍を批判。「患者の健康が優先され、安全な環境で中断のない処置が保証されなければならぬ」と強調しました。

ヤシャレビチ氏は「患者に移動を強制するのは状態の悪化や死にさえつながりうると幾度も警告してきた」とイスラエル軍を批判。「患者の健康が優先され、安全な環境で中断のない処置が保証されなければならぬ」と強調しました。

水・食料ない中出産も

